

浜寺の森

～人をつなげる駅づくり、まちをつなげる駅づくり～
 浜寺公園駅が今の場所につくってからおよそ一世紀。その間に駅をとりまく状況は変わり続けてきました。そして今、駅の高架化にともない新たな変化の時をむかえています。
 この機にまちと駅をめぐり豊かな暮らしをみつめなおし、それを実現する舞台として新しい浜寺公園駅舎を提案したいと思ひます。
 かつてのように多くの人々が訪れるだけではなく、地域社会にとって主要な活動拠点となる空間づくりが不可欠です。人が訪れ、集まり、共に過ごし、さまざまなものを共有できる場所。人とまちと暮らしのありようをかえりみると、ひとつながりの森のような空間が思い浮かびます。そこにはなにかが息づいて、とてもおだやかな音が聞こえてくるでしょう。



[1] まちに森を導く駅



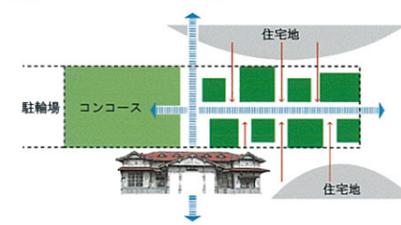
私たちは浜寺公園の豊かな緑を引き込んだ、地域の新たな核になる駅を提案します。駅の高架化で内陸部と臨海部が密につながります。加えて駅に引き込まれた緑がまちへと波及し、新たな地域の風景を作り出すでしょう。魅力ある地域の風景は、駅をただの通過点でない、目的地としての駅に新たな命を吹き込みます。歴史ある既存駅舎と共に新たな駅舎が地域の生活を活性化させ、よりよい居住環境にも寄与することができるでしょう。

[2] 人があつまる森



目的地となる駅には様々な人々が集まります。人々の活動を許容できる空間を駅に設けることにより、駅は多様なシーンを生み出しながら地域と共に発展します。駅という大きな木を中心として人々が集まり、駅を核として地域に人の繋がりという大きな森を生み出します

[3] コミュニティキューブをつくる



線路の高架化にもなつていられる高架下は新しい駅にとって重要な空間となります。高架下の空間を活用する事例は近年よくみられますが、都市環境の整備という観点からも必然といえるでしょう。また、線路によって分断されていた臨海部と内陸部が直接的に結びつく場所でもあり、さまざまな有効活用が期待できます。

[4] 人と駅が馴染む仕掛けづくり



- ワークショップや建設見学会等の開催
- 駅ができる過程に参加する
- 清掃活動、花壇
- 駅を育てる

新しい駅には、訪れた人びとの足跡を残せるような機会や設えをもうけることがのぞまれます。自分の名前や印を残すことで、駅との親密な関係を築く仕掛けを提案します。「自分たちの駅」という感覚をもつことで、駅は空間的にも心理的にもより身近な場所となります。

[5] 安心安全な駅空間

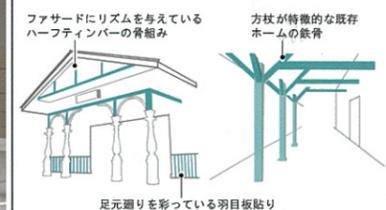


新駅舎から漏れる明かりは地域の人々に安心感を与えるまちの灯台としても機能します。また高架化しているため、津波等の非常時には駅舎自体が避難場所として機能するでしょう。まちの安心、安全のシンボルとしての表情も見えることによって地域の人々がより利用しやすい新駅となります。



- 床は多層を落とした白系の素材を用いて、ホームを明るく演出し、雨の日でも滑らない様、摩擦係数の大きい素材を使用します。
- 住宅地側ガラス面は住宅地が見えない様、ガラスにマスクをかけます。
- 床はメンテナンスを考慮し、テラゾタイルとします。
- 天井は高架下の軸線に沿いながら森を意識した木質系素材とします。
- 高架駅舎柱は杉板型枠を用い、森を転写します。
- 階段には蓄光素材を貼り、非常時にも安心安全な設えとします。

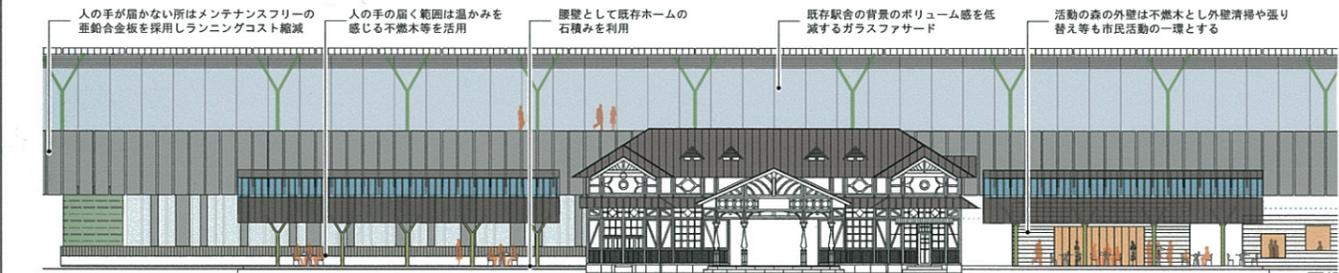
デザインキーワードとなる既存駅舎



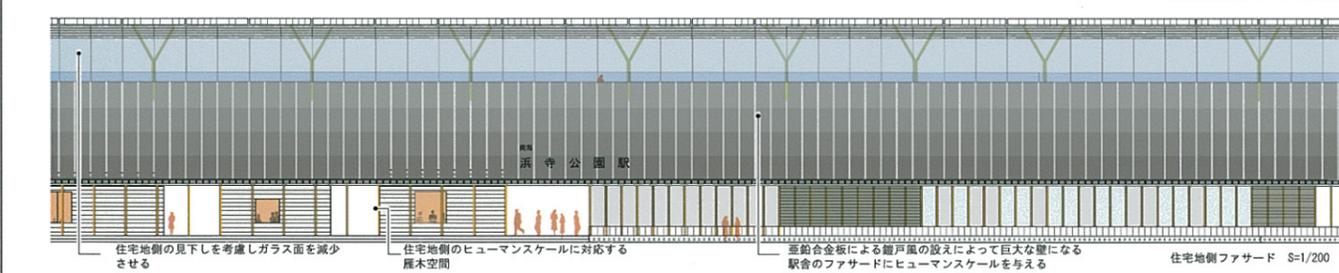
浜寺公園駅は野原金吾が設計し、明治40年に完成した木造洋風駅舎です。その随所にすばらしい意匠を持った部位が存在しています。そこで我々はその中からデザイン要素をサンプリングし、新駅舎に取り込むことを試みました。既存駅舎の意匠を新駅舎に取り込むことによって新旧の駅舎がそれぞれを引き立たせ今後も永きに渡り、利用者の方々に愛されていく駅になることでしょう。

既存駅舎と新駅舎が溶け合うファサードデザイン

既存駅舎の外観デザインをサンプリングすると、高さレベルごとでそのデザインが切り替わっています。そこで新駅舎もそのデザインの切り替わりを意識しながら各レベルごとに素材、パターンを切り替えることによって、既存駅舎と新駅舎の外観デザインが溶け合い、新しい浜寺公園駅のファサードが生まれます。
 ○住宅地側については、特にヒューマンスケールを意識し、住宅地への圧迫感の軽減に配慮したファサードデザインとします。



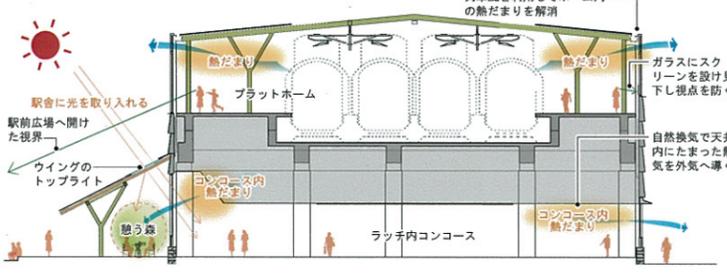
浜寺公園側ファサード S=1/200



住宅地側ファサード S=1/200

コスト削減や環境負荷低減を考慮した手法と素材

○使用材料は乾式で取り付け可能なものとし、また部材をモジュール化することによって工期短縮を図ります。
 ○人の手の届く範囲には再利用材や肌理を意識した材料を選定し、メンテナンスが困難な部位に関しては耐食性、耐候性に優れた材料を提案します。

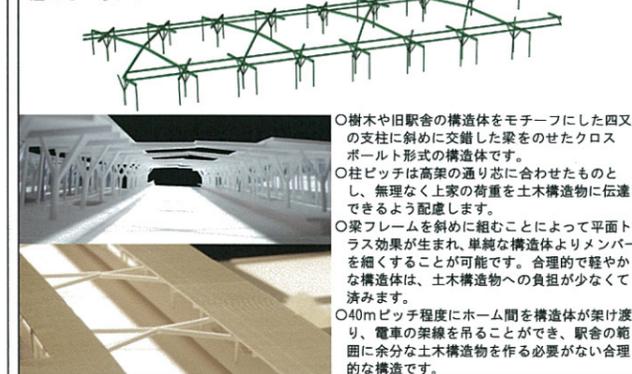


断面図 S=1/200



○外壁のガラスカーテンウォールは自浄機能のある光触媒コーティングを塗布することで、いつも綺麗なガラスを保つ。
 ○メンテナンスが困難な部位に関しては耐食性・耐候性に優れた、メンテナンスフリーである亜鉛合金を採用。
 ○腰壁には、既存フォームの石積み再利用し、また清掃も市民活動の一環として、人と駅を繋ぐ、ランニングコストを低減。
 ○コミュニティキューブの外壁部は不燃木を採用、温かみある意匠とし、張り替え等のメンテナンスはイベントを兼ねて行う

魅せる上家フレーム



概算工事費について ※費用は直接工事費の合計金額による

新駅舎		単位: 円		
区分	単位	数量	単価	金額
外観	外壁	2,500	165,000	412,500,000
	屋根	1	140,000,000	140,000,000
	その他	1	425,000,000	425,000,000
内観	内装	4,500	70,000	315,000,000
	床	1	20,000,000	20,000,000
	その他	1	10,000,000	10,000,000
合計				1,322,500,000
駅前交通広場・駅前線		単位: 円		
駅前線	歩道	1,100	22,000	24,200,000
	車道	350	12,000	4,200,000
	その他	1	10,000,000	10,000,000
駅前交通広場	歩道	3,100	23,000	71,300,000
	車道	750	12,000	9,000,000
	その他	1	60,300,000	60,300,000
合計				179,000,000

